

2017(H29)～2029(H41)

第2次稲敷市総合計画 第4回審議会資料
重点プロジェクト(案)

■重点プロジェクトの目的

総合計画は、行政施策を総合的に位置づける最上位計画です。基本構想は、稲敷市が目指す理念を示すものであり、基本計画では市が取り組む行政施策が目的別に体系的に整理されます。このように、すべての施策が網羅されることによって、緊急に取り組むべき最重要課題は何か、将来像を実現させるためには、何に重点をおいて施策を進めていく方針なのか、が明確にならないという課題をもっています。

第2次総合計画における重点プロジェクトは、これらの課題に対応し、総合計画をより効果的に推進していくことを目的に設定するものです。

稲敷市のすべての施策を体系化した基本計画の中で、特に力を入れて取り組むべき最重要課題を明らかにし、重点化を図ります。「未来の稲敷の姿」を展望し、稲敷市を将来にわたって持続的に維持・発展させていくための、戦略的・政策的な施策についても必要に応じて位置づけます。

■重点プロジェクトの位置づけと(基本構想・基本計画との関係)

- ・重点プロジェクトは、基本構想の将来像「みんなが住みたい素敵なまち～大好き♥自慢のふるさとプロジェクト」を受け、具体的に取り組むべき内容を位置づけるものです。
- ・重点プロジェクトは、基本計画の冒頭に位置づけます。
- ・基本計画の改定にあたっては基本計画と合わせて見直します。

■重点プロジェクトの特徴

- ・重点プロジェクトは、稲敷市を取り巻く社会状況、人口減少問題、定住促進、さらには地域間競争への対応などの観点から、独自性、先導性、希少性のある取組を位置づけます。
- ・重点プロジェクトには、稲敷の強み、稲敷らしさ、稲敷ならではの地域特性を生かした地域振興策を位置づけます。

■重点プロジェクトの構成

- ・重点プロジェクトは本市が緊急に取り組むべき最重要課題を3つの視点で集約したものです。

子どもたちの
笑顔あふれるまち

働きやすく
住みやすいまち

暮らして
安心安全なまち

■重点プロジェクトの全体像

重点プロジェクトは、将来像である「みんなが住みたい素敵なまち」を目指して、今後5年間に、基本計画に位置づけた施策の中で、優先的かつ重点的に取り組むプロジェクトです。

「みんなが住みたい素敵なまち」を実現するためには、市民一人ひとりがまちづくりの主役となって、自慢のふるさと稲敷を愛し、誇りに想う気持ちを培っていくことで、多くの市民が「住んでよかった」と思えるようなまちを創りあげていく必要があります。

このため、第一に取り組むこととして、子育て・教育を、稲敷市の最重要施策と位置づけ、稲敷市の未来を担う子どもたちが、元気でたくましく育つこと、そして、稲敷市に愛着をもって地域に根ざしてしてくれるよう、「子どもたちの笑顔あふれるまち」を目指します。

第二に取り組むこととして、地元企業の支援をはじめとする産業の振興や、若い世代が稲敷市に住み続けたいような定住支援を進めることにより、緑豊かな自然環境のなかで、職と住が整った「働きやすく住みやすいまち」を目指します。

第三に取り組むこととして、行政にあっては防災や防犯対策、交通安全など地域の安全対策の強化により、市民が安心安全に暮らすことができ、地域にあっては、コミュニティの活性化や協働のまちづくりを発展させることで、「暮らして安心安全なまち」を目指します。



子どもたちの笑顔あふれるまち

子育て・教育を、稲敷市の最重要施策と位置づけ、稲敷市の未来を担う子どもたちが、元気でたくましく育つこと、そして、稲敷市に愛着をもって地域に根ざしてしてくれるよう、「子どもたちの笑顔あふれるまち」を目指します。

■笑顔がつながる子育て支援プロジェクト

乳幼児期及び学齢期の子育て支援はもとより、それ以前の出会い・結婚・妊娠・出産の時期、義務教育以降の青年期までを通して、長期的に子どもたちとその保護者の夢と希望がかなえられるよう、切れ目ない支援や取組を積極的に進めることで、「稲敷市に生まれ育って良かった」と思えるまちを目指します。

また、地域全体で子育て世代を支える環境づくりや三世代同居や近居の子育て家庭を支援する取組などを推進します。



◆取組方向◆

- ・男女の出会いの場を様々な機会を通して創出することにより、結婚を応援・支援する取組を進めます。
- ・交流の場や遊び場の確保、イベントの充実など乳幼児をもつ家庭が安心して子育てできる環境を目指します。
- ・子育て支援制度や子育てをサポートする企業の優遇など男性を含めた仕事と家庭生活の両立支援を進めます。
- ・妊婦や乳幼児の健康診査、不妊治療への助成などの母子保健の充実を図り、子どもを産み育てやすい環境をつくります。
- ・乳幼児期から学童期を通して、医療・福祉・教育にかかる経済的負担の軽減により子育て家庭をサポートします。
- ・子育て情報の提供ときめ細かい相談体制の充実により、孤立しがちな子育て家庭をサポートします。
- ・乳幼児から就学期までの家族まるごとの総合支援を検討します。

◆未来に向けて◆

子どもたちの笑い声が街中に響き渡り、地域のなかで暖かく守られて育てられるよう、どこよりも心のこもった子育て支援を進め、子育てが楽しい、子どもたちがうれしい素敵なまちの実現を目指します。



■たくましく生きるいなしきっ子プロジェクト

子どもたちの生きる力を醸成するため、基礎的・基本的学習の徹底など確かな学力や応用力の定着、国際化・ICT化の進行など社会の変化に対応した多様な教育を展開します。また、稲敷市の豊かな自然に触れ合う機会を通して健やかな成長を促します。

さらに、家庭が担う教育は大変重要であることから、家庭教育の支援を強化するとともに、家庭と地域と行政が連携することにより地域の教育力向上を図ります。



◆取組方向◆

- ・確かな学力の定着を目指し、基礎的・基本的学力の向上を目指した取組を強化します。
- ・小学校での英語教育の強化や、ICT化に対応した情報活用能力の向上に積極的に取り組みます。
- ・安全で快適な教育環境の整備充実を目指すとともに、地域と学校が連携した防災力の強化を図ります。
- ・地域の文化・歴史の紹介などふるさと教育の充実を図るとともに、地域と連携し自然資源を活かした体験学習の充実を図ります。
- ・茨城国体や東京オリンピック・パラリンピックを契機に、スポーツに親しむ環境づくり、健康を保持するための体力づくりを支援します。
- ・だれもが学べる子どもの学習支援や学び直しの場などの提供により子どもの成長を支えます。

◆未来に向けて◆

子どもたちのより良い未来のために、そして成長した子どもたちによる稲敷市の発展を目指して、目まぐるしく変化する社会を生きていく力を醸成するとともに、いなしきっ子が強く賢く優しく成長するよう教育の充実を図り、未来を自ら切り拓いていける、いなしきっ子を目指します。



働きやすく住みやすいまち

地元企業の支援をはじめとする産業の振興や、若い世代が稲敷市に住み続けたいくなるような定住支援を進めることにより、緑豊かな自然環境のなかで、職と住が整った「働きやすく住みやすいまち」を目指します。

■地域経済活性化プロジェクト

地元企業の安定的経営を促進するため、稲敷市で商店や事業所を経営する企業への経済的支援に努めます。また、稲敷市の基幹産業である農業がこれからも持続していくよう、農地の維持・保全を図るとともに、農業のより一層の振興・発展を目指した取組を進めます。

圏央道の全線開通を契機に、積極的な企業誘致を進めるとともに、創業支援の充実など新しい産業の創出を図り、地域における雇用の安定・拡大を目指します。



◆取組方向◆

- ・魅力的な雇用機会創出に向け、市内企業への経済的支援、起業者への創業支援を強化します。
- ・稲敷ならではの江戸崎かぼちゃ、浮島れんこん、あずまミルククインなど、農産物のPRを強化するとともに、稲敷らしさや稲敷の農産物を最大限に生かした、新たな加工品等の開発・展開を支援します。
- ・遊休農地の解消・利活用や新規就農者の支援・育成、農地の集約化など、農業の維持・発展を目指します。
- ・産官学連携や農産物のブランド化など、市の特性を生かした産業振興策を積極的に展開します。
- ・圏央道インターチェンジの全線開通によるポテンシャルを最大限に生かし、インターチェンジ周辺の開発により地域産業の活性化を目指します。
- ・第6次産業化（農業生産から、加工販売までを業務展開する産業）の取組を支援していきます。
- ・地域活性化を図るため、地元雇用が見込めるような工業系の開発を誘致・検討します。
- ・使われなくなった公共財産や空き地などを、必要とされている用途に転換するなど活用を図ります。
- ・テレワークに対応したSOHOや、サテライトオフィスなどで働く市民をサポートします。

◆未来に向けて◆

圏央道江戸崎パーキングエリアは、環状の広域圏の立地を活用し、稲敷市の特産物を販売する施設など商業サービス機能の強化を目指します。



■水と緑の住みたくなっちゃうまちプロジェクト

若い世代が求める多様な生活スタイル、稲敷ならではの自然環境や広い土地を生かした暮らし、三世代同居・近居など様々な暮らしが実現できるよう、定住促進のための多様な支援を積極的に提供していきます。

霞ヶ浦や豊富な水辺（河川）、樹林地、広大な田園地帯、など豊かな自然環境を有しながらも、「東京圏に1時間で行ける、意外と便利な」立地特性を活かし、水と緑に囲まれた素敵な暮らしが実現できる魅力的な住宅地の整備を目指します。



◆取組方向◆

- ・若年夫婦に対する住宅取得補助や三世代同居・近居に対する転居費用補助の支援を図るなど、市民がライフステージの転換期を迎えた際のサポートを強化し、定住促進を図ります。
- ・稲敷市定住に係る情報を総合的に迅速かつ的確に提供することにより、市内外からの移住・定住促進を図ります。
- ・霞ヶ浦を周回するサイクリングロードの整備にあわせ、観光、レクリエーション機能の充実を図るため、サービス機能の配置を検討し、水と緑のうるおいにあふれたまちを目指します。
- ・空き家バンクの充実・活用に加え、新たな市営住宅の建設や支援策の検討により、若者のUIターン等への受け皿の拡充を図ります。
- ・滞在型市民農園・週末農園、空き家等を活用した稲敷らしい暮らしの実現を目指します。
- ・空き家リノベーションを支援することにより若者の呼び込みを促進します。

◆未来に向けて◆

地域拠点（市街地など）の活性化を図りながら、既存の集落などの生活環境を将来にわたって維持していくための取組を検討し、持続的なまちづくりを目指します。



暮らして安心安全なまち

行政にあっては防災や防犯対策、交通安全など地域の安全対策の強化により、市民が安心安全に暮らすことができ、地域にあっては、コミュニティの活性化や協働のまちづくりを発展させることで、「暮らして安心安全なまち」を目指します。

■安心安全な地域づくりプロジェクト

市民が地域の中で安心安全に暮らせるまちを目指し、市民の生命・財産を守る取組を最優先に取り組みます。

防災においては、地震や風水害など大規模な災害に対応するため、迅速な初動体制の確保、市民への速やかな情報提供やライフラインの確保、広域による相互援助体制の充実、防災備蓄品の確保等を図ります。

また、地域ぐるみの消防・防災・防犯体制の構築、地域において災害時に支援が必要な住民を見守る仕組みの充実を図ります。



◆取組方向◆

- ・地域防災計画、初動マニュアル、マップなどの随時見直しにより対応力の強化を図るとともに、被災者の生活支援、医療体制の充実により、災害時のリスクを軽減・回避に取り組みます。
- ・防災協定の広域化により、大規模災害における応援対策や復旧措置の強化します。
- ・道路、橋梁、公共施設の整備・長寿命化や河川、急傾斜地の対策など、災害に備えた基盤整備を進めます。
- ・消防団員減少に対応し、機能別消防団を導入するなど、地域消防力の維持を図ります。
- ・地域防犯体制やパトロールの強化など、地域による防犯力の向上を図ります。
- ・地域環境を悪化させる空き家・空き店舗の対策を強化します。

◆未来に向けて◆

市民の生命と財産を守るため、行政とともに地域の住民やボランティア等が協力しあい、災害や交通事故、犯罪による被害を最小限に食い止めるとともに、地域の安全を守る基盤整備により安心安全に暮らせるまちを目指します。



地域の絆を生かした交流・連携プロジェクト

市民、事業者、地域、行政が相互の絆を深め、暮らしやすいまちを目指します。

そのため、地域コミュニティの維持・活性化のための取組を積極的に展開するとともに、市民が主体的に取り組むまちづくりを支援します。

また、それぞれの地域に伝わるお祭りや習わしなどを大切に守るとともに、新たな市民参加型のイベントを開催し、地域の交流・連携を深め、活性化を図ります。

さらに自慢できる・誇れるまちを目指し、シティプロモーションを推進します。



◆ 取組方向 ◆

- 地域の絆を安全対策に生かし、地域で取り組む高齢者や子どもを見守るシステム、支援する取組を促進します。
- 地域行事の復活や文化の復興と継承活動など、ふるさと意識を醸成する取組を支援します。
- 地域コミュニティの維持・活性化を図るため、地域担当制の導入など、地域ごとの課題に対応したきめ細かな施策が展開できるよう、その手法を検討します。
- 市民の意見を直接伺うタウンミーティング（市政報告会）を継続的に実施し、市民主体の市政を展開します。
- 稲敷にしかない魅力を発掘・磨き・創造し、魅力を積極的に発信するなど、市の認知度や愛着心を高めるとともに、ふるさとの思いを大切に育てる取組を支援します。
- 地域間でのコミュニティを強くする取組や、多世代交流の場の創出を支援していきます。

◆ 未来に向けて ◆

ご近所の力を最大限に生かすため、地域の意思や判断でまちづくりを進めるための支援強化や市民活動の充実及びネットワークを図るなど、人と人の交流が深まり、住み続けたい、住んでよかったと思える地域を目指します。

